

3. 先々月・先月の両園地探鳥会

①くろんど園地(12月) 雨天中止

②ほしだ園地(1月) 朝から冷え込みの厳しい中、スタートすぐにイソヒヨドリ・ツグミ・シメ、天野川に出てカワセミ・オシドリ・カルガモ・コガモなど、平地の私市集落では順調でした。川沿いの山地の遊歩道に入って、ルリビタキ・ジョウビタキが何度か出てくれたものの、カラ類など小鳥が少なく(エナガは0羽)、お目当てのハヤブサも観察できない残念な結果、帰りには突風とともに猛吹雪、そして快晴にという変化の多い一日でした。

4. 日本野鳥の会大阪支部からのお知らせ

①北河内の定例探鳥会(2019年3月度)案内

春を待ちわびていた鳥たちが、日射しの長さ・明るさを知り動きが活発になる季節。水辺ではカモの仲間が北帰行の準備に入り、アトリ・シメなど小鳥たちも繁殖期の装いに変化しています。

曜日 (月日) 場所 集合時間・場所

第1(土)(3/2) 枚方牧野 9:00京阪枚方市駅下車ラポールひらかた前

↳ 3/3(日)は淀川寛平マラソンが開催され、探鳥コースが利用できないため、一日早めて実施する。

尚、集合場所を枚方市駅近くに変更しているので**要注意**。

第2(日)(3/10) 山田池公園 9:30現地公園北入口駐車場

第3(土)(3/16) 緑の文化園 9:00JR学研都市線四条駅東口

第4(土)(3/23) ほしだ園地 9:30京阪交野線私市駅前

↳(奇数月ほしだ園地・偶数月くろんど園地に変更)

②日本野鳥の会入会時の会費

| 会員区分 (内容) | おおぞら会員 (本部+支部) | 赤い鳥会員 (支部のみ) | むくどり会員 (支部・但し1年のみ) |
|--------------|-------------------|-----------------|-----------------------|
| 年会費 | 7500円 | 3500円 | 1000円 |
| 入会金(初年度のみ) | 1000円 | 1000円 | — |
| 会報 隔月刊(支部) | 「むくどり通信」 (本部) | 「むくどり通信」 | 「むくどり通信」 |

③ 探鳥会参加費 会員 100円 非会員 200円(交野のみの会員も)

参加費+名簿記入で探鳥会保険に入っています。しかし、痛みは保証しないので、怪我をしないように

皆さんの自宅の周りに小鳥はいますか。

今冬シーズンは、ツグミ・シロハラなどの小鳥の個体数が少ないままで終わりそうです。台風21号で木の葉・木の実が吹き飛ばされ、餌が少なくなったためでないかとの意見も聞かれますが、どうでしょうか。2~3月に回復する年が多いので、今年も期待しています。



府民の森 “くろんど園地探鳥会”

(毎月第4土曜日 両園地通算第230回)

平成31(2019)年2月23日(土) 9:30~15:00

日本野鳥の会大阪支部 平軍二(090-6901-1425)

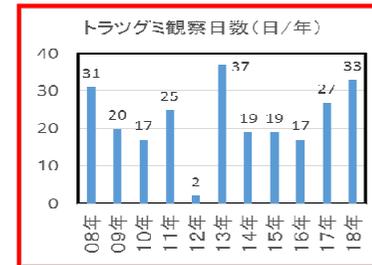
友田武・神戸徹・斉藤健・近藤輝男

1. 交野の鳥シリーズ(88) トラツグミ

冬鳥のトラツグミは年によって観察頻度が異なる鳥ですが、今月の写真は、2月17日交野バードに小牧綾子氏が公開された←トラツグミにしました。



友田さん集約のフィールドノート(交野市の野鳥観察日数)では、トラツグミの年間観察日数は下図の通り、最大37日、最低2日で、平均25日となっています。



トラツグミはタイガースファンでなくても観察できるとうれしい鳥、今日も環さるできればいいのですが。

地上を歩く姿ではあまり気づきませんが、ツグミ(24cm)と並ぶと、一回り大きい(30cm)ことがわかる。

頭部から腰までや翼などの体表は、黄褐色で黒い鱗状の斑が密にあり、いわゆる虎模様が素晴らしい。体の下面は白っぽく、雌雄同色である。

シベリア東南部から中国東北部、朝鮮半島、そして日本(本州、四国、九州の低山から亜高山帯)で繁殖し、冬季はインド東部からインドシナ半島、フィリピンなどに渡り越冬している。

主に丘陵地や低山の広葉樹林に好んで生息するが、林の多い公園などでは、林床で観察される。今から30年ほど前、トラツグミが多かった年には、シロハラが好きな林床にトラツグミが進出していたことがある。食性は雑食で、雑木林などの地面で、積もる落ち葉などをかき分けながら、土中のミミズや昆虫類などを採している。

